

平成29年度 大豆栽培こよみ

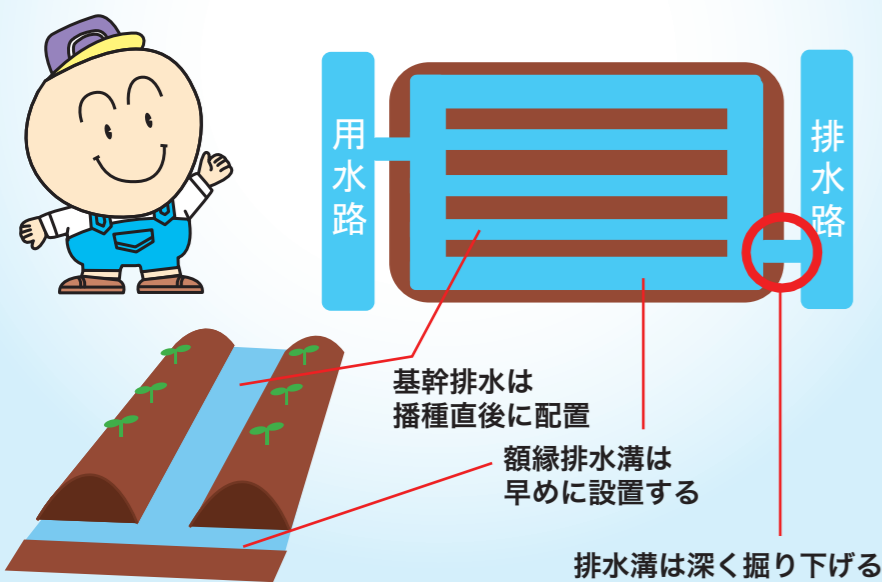
みな穂農業協同組合
高品質大豆・大粒比率増加・単収300kgどりをめざして!

重点技術対策 石灰質資材の施用と堆肥等有機物の積極的な投入 排水対策の徹底(額縁排水溝の設置と中耕培土の実施) 種子更新と種子消毒の徹底

① 大豆は、排水が命!

徹底的な排水対策が、出芽・苗立ちの安定につながります。

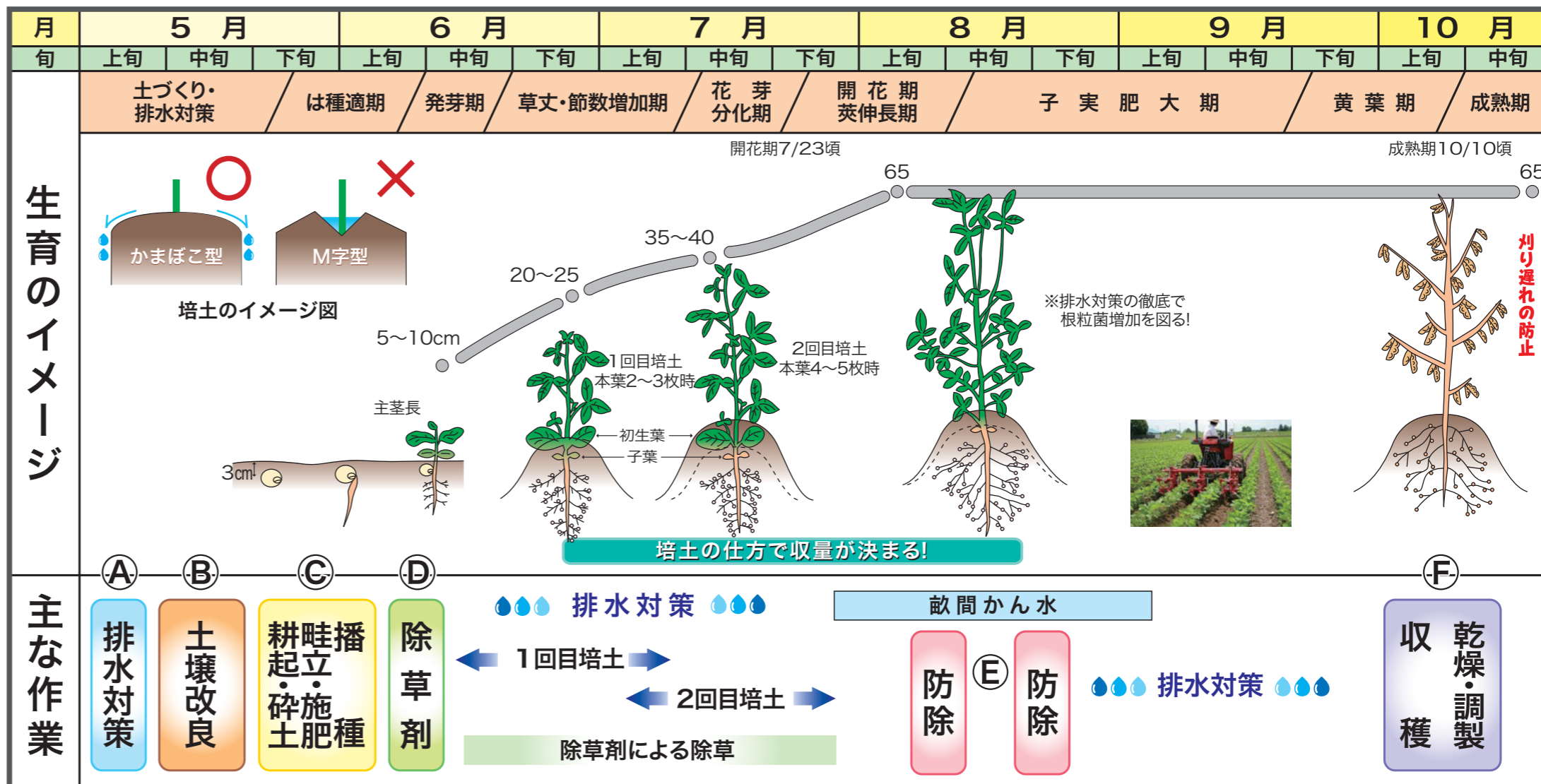
- 額縁や基幹排水溝の設置は、排水が徹底出来るように深くしておきましょう。
- 透水性の悪い圃場ではサブソイラなどにより、心土破碎をしましょう。
- 高畝栽培で必ず排水対策をしましょう。
- 平床栽培は、播種時に基幹排水溝を掘り、確実に排水溝に連結しましょう。



② 積極的な土づくり

- 土壌pHの目標値は、6.0~6.5
- 堆肥散布や地力増進作物のすき込みで収量向上、しわ粒発生を少なくしましょう。
- 深さ20cmを目安に深く起こしましょう。

苦土生石灰 … 100kg/10a
発酵ケイフン … 150kg/10a



③ 耕起・施肥・播種

耕起作業の要点

- 作業速度を落とし低速のロータリ回転で行なう
- 作土深20cmの深起し

施肥・播種作業の要点

- 基肥はN成分で3~4kg/10aが目安
基肥資材：みな穂オール14 20~30kg/10a
- 播種深度3cmの徹底 ● 栽植本数の確保

品種	播種時期	栽植密度(本/10a)	播種量(kg/10a)
エンレイ	6月上旬	14,000~16,000	5~6
	6月中旬	16,000~18,000	6~7
シュウレイ	6月上旬	14,000~16,000	5~6
オオツル	6月上旬	10,000~12,000	5~6

④ 除草

時期	品名	10a当りの薬量	10a当りの希釈水量	特記	使用時期	総使用回数
播種後	エコトップ乳剤	500ml	100L	畑地1年生雑草	—	1回
	エコトップ粒剤	4~6kg	—	畑地1年生雑草	—	1回
生育期間中	ナブ乳剤	150~200ml	100~150L	イネ科雑草3~5葉期	収穫2ヶ月前まで	1回
	ポルトフロアブル	200~300ml	100L	イネ科雑草3~8葉期	収穫30日前まで	1回
	大豆バサグラン液剤	100~150ml	100L	畑地1年生雑草	収穫45日前まで	1回
	バスタ液剤	300~500ml	100~150L	畝間・枕地処理	収穫28日前まで	3回以内

- 除草剤は、周辺の水稲・その他作物のドリフトには十分に注意する
- ナブ乳剤と大豆バラグラン液剤の混用は、効果が低下するので注意する。

⑤ 病害虫防除・種子消毒

(詳細は防除特報で確認してください)

時期	農薬名	散布量(10a当たり)	対象病害虫	散布時期	総使用回数
種子消毒	クルーザーMAXX	乾燥種子10kg当たり80ml	フタスジヒメハムシ タネバエ ネキリムシ類 紫斑病 莖疫病	播種前	1回
基本防除	① スミチオンベルコート粉剤DL	3kg	紫斑病 カメムシ類	8月中旬(21日前)	2回以内
	② トップジンM粉剤DL	4kg	紫斑病	8月下旬(30日前)	4回以内
	トレボン粉剤DL	4kg	カメムシ類 フタスジヒメハムシ	8月下旬(30日前)	2回以内
随時防除	サイアノックス粉剤	4kg	ウコンノメイガ(ハマキムシ)	開花期(7日前)	2回以内
	撒粉ボルドー粉剤DL ※シュウレイのみ	4kg	葉焼病	7月~下旬	—

時期	農薬名	散布量(10a当たり)	対象病害虫	散布時期	
基本(へり)防除	1回目	ベルコートフロアブル	0.8L	紫斑病	8月中旬
		プレバソフロアブル	0.8L	マメシクイガ ハスモンヨトウ	
	2回目	アミスタートレボンSE	0.8L	紫斑病 カメムシ類	8月下旬

⑥ 収穫・乾燥 <<適期を逃さず、収穫しましょう!>>

- 汚粒発生防止のため、収穫前に雑草や青立ち株を抜き取る
- 収穫は、莢水分が高い朝夕は避けましょう
- 刈取り高は、地際から10cmの高さで
- 乾燥は、温度よりも時間をかけて慎重に



※ 栽培記録簿は、1回目の出荷の際に必ず提出しましょう!!